

課 題 越前水仙圃場改良試験（土壌改良資材選定）

担当者 石井 大樹

1 背景・ねらい

課題（れきの撤去）に準じる。

2 試験構成及び結果

本試験は、土壌硬度改善のため 3 種類の堆肥を改良資材として施用し、それぞれが水仙の生育に及ぼす効果の検証を行った。

越廼地区の試験圃場にて 10 月 24 日から翌 1 月 22 日まで生育調査を行い、収穫は 12 月 26 日から翌 1 月 22 日まで行った。収穫及び調査は JA 福井県越前水仙出荷基準に該当するもののみ、収穫・調査を行った。

試験区	れき	堆肥	定植方法
1 区	撤去 (地下 30cm まで)	腐葉土 1,000L/a	8 条植え(8,000 球/a)
2 区		バーク堆肥 600L/a	
3 区		牛糞もみがら堆肥 200 kg	
4 区(対照区)		なし	
5 区		腐葉土 1,000L/a	6 条植え(5,454 球/a)
6 区		バーク堆肥 600L/a	
7 区		牛糞もみがら堆肥 200 kg	
8 区(対照区)		なし	坪植え (4,800 球/a)
9 区		腐葉土 1,000L/a	
10 区		バーク堆肥 600L/a	
11 区		牛糞もみがら堆肥 200 kg	
12 区(対照区)		なし	

各堆肥の施用量は、農林水産省の都道府県施肥基準並びに製品製造業者が示す標準施用量をもとに算出した。

2 区で葉長が長い傾向がみられるものの、他の区との明確な差はみられなかった。花茎長も同様の傾向だった。(図 1、2) 収穫物についても差を確認できるものの、一定の傾向はみられなかった。収穫本数は 4 区が多く、資材を施用した区同士では同程度であった。(表 1)

以上のことから、土壌改良資材の違いによる生育の差はみられるものの、一定の傾向はなく、断定できなかった。加えて施用なしの区で収穫量が著しく多いこともあり、土壌改良資材による生育への影響の有無について調査の継続が必要と考えられた。

3 今後の展開・活用

水仙圃場の土壌改良に適した資材を選定するために、各土壌改良資材の改良効果の有無やその持続期間を調べるため、試験圃場での調査を継続する。

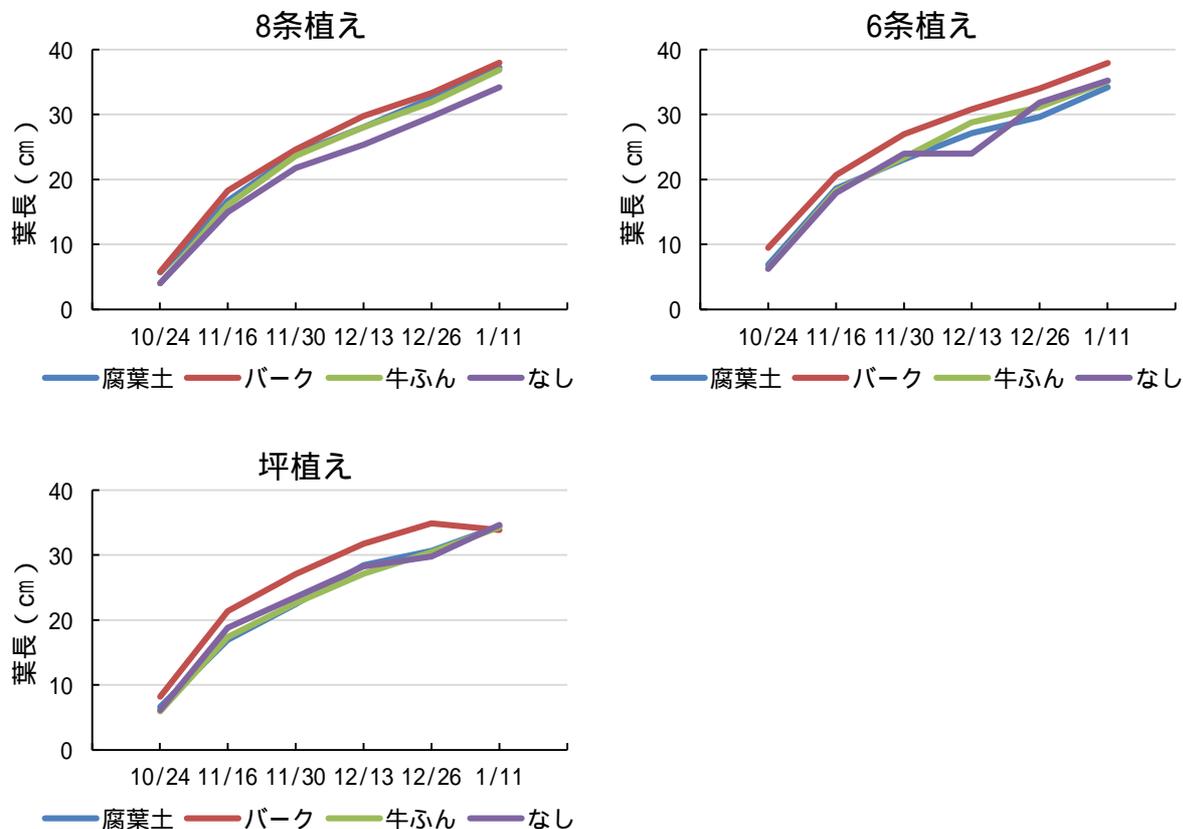
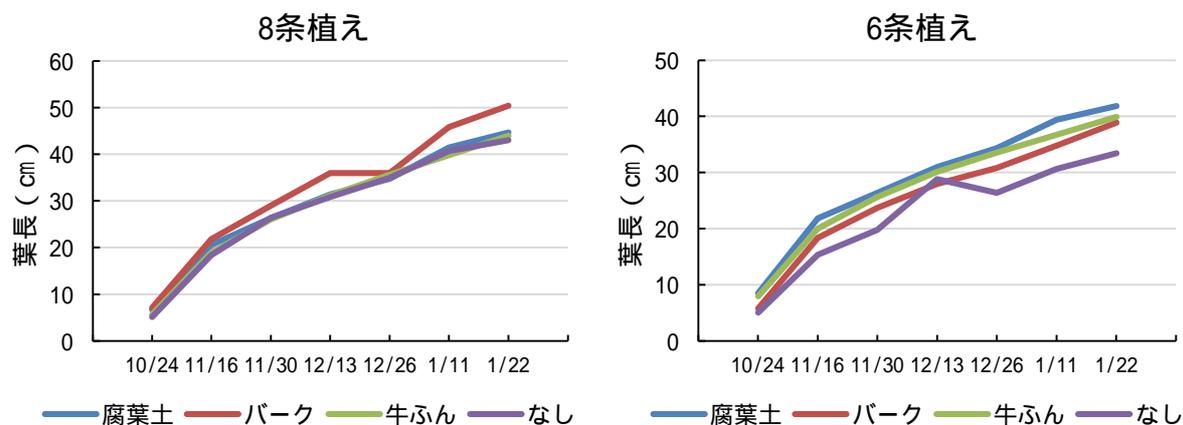


図 1 葉長の推移（開花球）



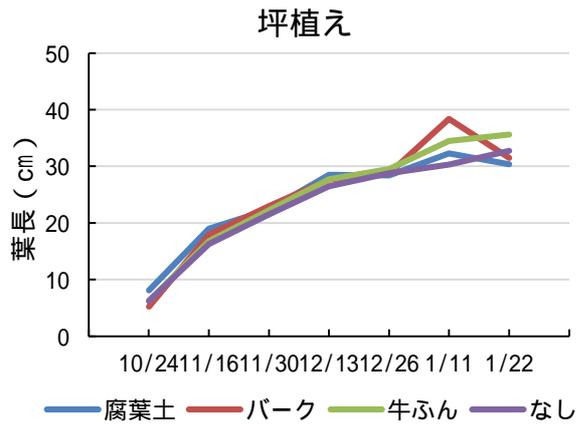
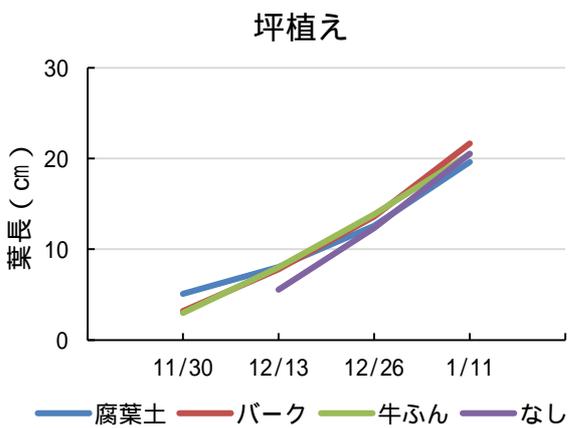
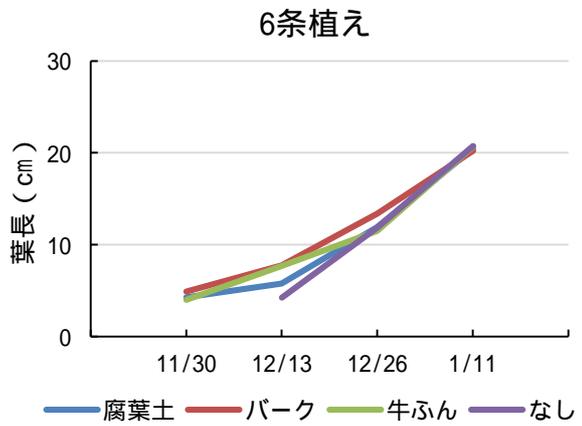
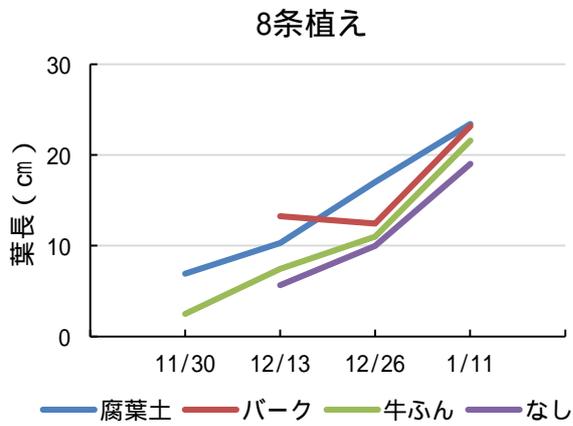


図2 葉長の推移 (養成球)

図3 花茎長の推移 (開花球)



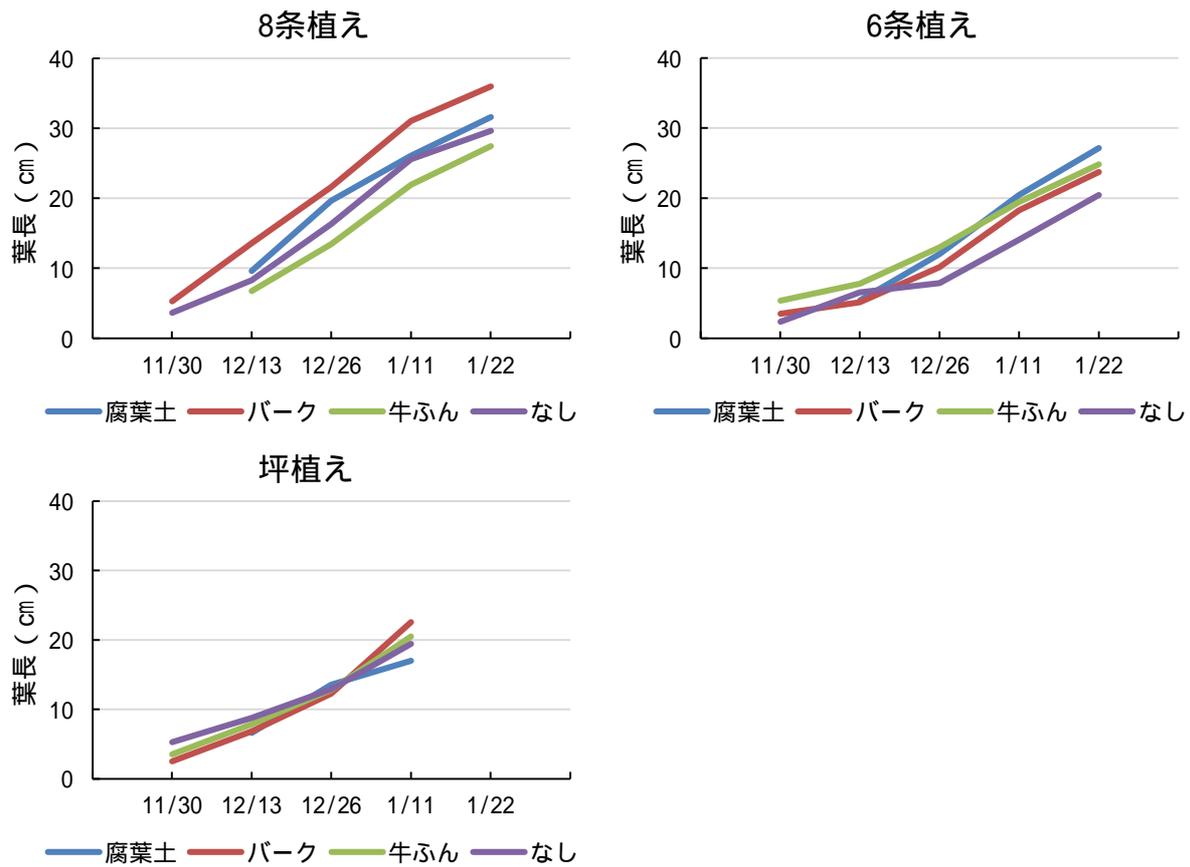


図4 花茎長の推移 (養成球)

表1 収穫物調査

試験区	収穫本数	定植本数	葉長	花茎長	葉数	花数	はかま長
1区	119	480	46.8	40.2	3.2	4.1	5.8
2区	62	480	47.5	36.4	3.9	4.1	5.4
3区	125	480	52.2	38.1	3.9	4.0	5.6
4区	200	480	49.0	36.3	4.0	4.3	5.7
5区	70	327	47.2	37.9	3.5	4.4	5.5
6区	88	327	50.6	40.7	3.8	4.8	6.1
7区	58	327	50.1	33.7	4.1	4.3	5.7
8区	147	327	46.0	36.8	3.6	4.6	5.3
9区	51	288	46.4	33.8	3.9	4.6	5.5
10区	68	288	50.9	37.5	4.0	4.6	5.8
11区	48	288	47.0	39.8	3.2	4.6	5.7
12区	51	288	45.3	37.8	3.4	4.1	4.9

収穫日 12月26日～1月22日